

都道府県名	石川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	輪島市立松陵中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	20
生徒数	84	99	81	0	264	

研究の概要

1. 研究主題 『自ら学び自ら考える力や態度の育成』
～各教科の指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科（数学と英語は習熟度別少人数授業の研究）

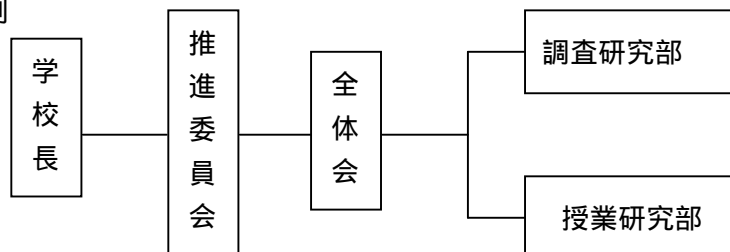
- ・本校の研究主題を考えたとき、全教科で実施することが望ましいため。
- ・数学と英語は、生徒の理解の状況に差が出やすいため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 各教科の基礎・基本の見直しとその定着をはかる指導法の工夫</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」の3つは相互関連で向上し「確かな学力」となる。 ・継続的な読書活動によって学びの習慣が身に付き、言語能力・感性・情緒が育つ。 ・評価の工夫と個に応じた指導で学ぶ意欲を引き出すことができる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎・基本とは何かをもう一度見直し、その定着のための指導法を工夫し授業に生かす。 ・英語・数学では習熟度別少人数授業を実施し、生徒の実態に応じた教材の提供と個に応じたきめ細かな指導をおこなう。 ・校内授業研究会を設けて、授業形態や評価規準を生かした授業の指導改善をする。 ・選択教科における多様なコースの設定をする。 ・総合的な学習の時間では、学校外の優れた社会人に学ぶ場を設定する。 ・毎朝15分間で読書習慣の定着を図る。 ・生徒の学習意識調査を行い、現状とその後の変容を調べる。
	平成16年度

平成 16 年度	<p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> やる気、学ぶ意欲を引き出す方法の研究会を定期的に持つ。選択教科における多様なコースの設定をする。 総合的な学習の時間では、学校外の優れた社会人に学ぶ場を設定する。 学年の生徒の実態に応じた少人数授業を実施し、少人数授業の実態に応じた教材の提供と個に応じたきめ細かな指導をおこなう。 毎朝15分間で読書習慣の定着を図る。
----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



調査研究部は、生徒の学力調査をして現状の学力の状況の調査を行ったり、指導の効果や変容を探る。

授業研究部は、評価規準表を生かした授業研究や基礎・基本の定着をはかる指導法を研究する。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

各教科の基礎・基本とは何かをもう一度見直し、その定着のための指導法を工夫し授業に生かすことが出来た。

(例 社会科)

基礎・基本について

- ・地形図の読みとりや地理的重要語句を理解し、活用できる。
- ・歴史上の重要語句を理解し、活用できる。
- ・公民的重要語句を理解し、活用できる。
- ・地理、歴史、公民分野を相互に関連して考えることができる。

基礎・基本の定着を図るための指導法について

- ・基礎的な復習テスト(授業開始5分間テスト)の実施
- ・新聞作り、白地図などの作業活動の導入
- ・家庭学習の働きかけ
- ・課題解決型の授業

英語・数学では学年の生徒の実態に応じた少人数授業を実施し、個に応じたきめ細かな指導が出来た。

校内授業研究会を3回もうけて、授業形態や評価規準を生かした授業の研究が出来た。

生徒の読書量が増加してきた。学校の図書館の本の貸し出し冊数を調べると、14年度1年間で2104冊、15年度は12月末までで約2200冊である。

各種検定の受検者数は次のようになっている。

	英語検定	漢字検定	数学検定(3級)
14年度	90名	111名	8名
15年度	95名	135名	12名

2. 今後の課題

同一地区内のフロンティアスクールである河井小学校との連携をより一層進め、つまずきの要因を明確にして指導法を工夫していく必要がある。

15年度は主に「学んだ力」「学ぶ力」に力点を置いて研究してきたが、来年度は「学ぼうとする力」にも視点を当て本校の研究主題である『自ら学び自ら考える力や態度の育成』に努めたい。

学力把握のための学校としての取組

石川県基礎学力調査の分析し、同一問題を定期テストし達成状況を確認した。

<例> 2年数学2学期中間テスト(10月実施)

$$\frac{2x+1}{4} - \frac{x-2}{3} \text{ を計算しなさい。}$$

本校2年生の正答率 77%

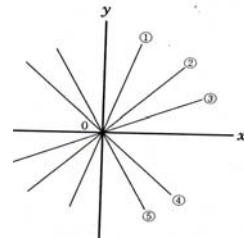
5月3年県の正答率 50%

右の図の直線 ~ は、ア~オ
のグラフを書いたものである。

の直線はどれか。

本校2年生の正答率 85%

5月3年県の正答率 66%



5月に全校生徒に学習アンケートを行ない、授業、読書活動、家庭学習のことを調べて分析するとともに、1年後に同様の調査を実施して変容を調べる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

16年10月8日に公開授業を行う。

研究の成果をHPで公開することを検討している。

輪島市の教科部会で成果の報告を行なった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 ・ 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 ・ 7~12学級
13~18学級 19~24学級
25学級以上

【指導体制】 ・ 少人数指導 T・Tによる指導
その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
・ 外国語 音楽 美術 技術家庭
体育 全教科

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ・ 有 無